

# 「……らしさ」がもつ危険性に気をつけて 大切にしたい「人権感覚」

編集委員が語る「いまどきの若者 その現在と問題点」

## 現代的な外見と 保守的な価値観

- A ● みなさん、私より少し年上なだけなのに、仕事とか家庭生活に対してすごくしっかりした姿勢。何年か後に私がこうなれるだろうか、強く感じました。
- B ● 年齢が少し違うだけに、社会に出ていることから、現実がよく見えているのかなと思いました。
- C ● みなさん、じつに真面目に一生懸命生きています。世間の「いまどきの若い人」のイメージとは違いますね。感動しました。
- D ● 出会った若者たちは、現代的な外見に似ず非常に保守的な価値観を持っていて、そのギャップが印象的でした。
- E ● 保守的といえば、まるで熟年の人たちが、若い頃言ったであろうような話をしていますね。

ただ、発言通りに生きているかという点、必ずしもそうではないかも。質問されれば真面目に答える、というところ

があるのでは？

- C ● したたかさというか、ずるさというか、適応力があるというか。

## 「……らしさ」がもつ危険性

- D ● 学校教育の現場では男女共同参画はほぼ成り立っているのに、卒業してわずか数年で、ものすごく保守的になっていることに驚きました。やはり、生活環境、とくに家庭とか母親が果たす役割が大きいと思います。

E ● 女の人は、かわいく見られたいと無意識に思ってしまう。だから、いくら男女平等を教えられてきても、「かわいさ志向」に……。

C ● 無意識ではなく、刷り込まれているのでは？

D ● 「こうあらねば」という刷り込みがあるでしょうね。

C ● たえば無人島で一人で生きていたら、かわいくなっていくかどうか。



A ● やはり異性がいるからでしょうっか？

D ● しかし、かわいらしさとは別な要素で勝負する女性もいます。だから意識の問題ではないでしょうか。

A ● 頭ではわかっている、なかなか決ま

られずに、うろついている人もいますよ。

F ● 性別の意識というより、生物として良く思われて、良い伴侶を得たいという点なら、人間の生命力がまだある

## 特集 彼と彼女のリアル

ことになりません。保守性を、必ずしも否定的には考えていません。

D ●個人的に、「らしくありたい」にこだわっていればともかく、「うあらねば……」になってしまつと問題。自分の生き方を狭めてしまつし、他人に価値観を強要することにもなりかねません。

C ●そして不自然な生き方をし、自分を見失う可能性が有りますね。心配なのは、「男らしさ・女らしさが大切だ」と言う人から、とかく固定観念が生まれやすいということですよ。

### 夫婦・家庭に潜むジェンダー・バイアス

D ●子どもから見ても、恥ずかしくなるくらい仲のいい夫婦でありたいとか、絶対に別れないとか、そういう意見の背景には、そうでない現実があると思います。

C ●昔は、親や教師などは批判の対象にできなかった。しかし、今は自由に言えるからでしょうか。

A ●私、親からはマイナスの面ばかり影響を受けているように思います。

B ●夫婦像として頭に浮かぶのは、「ああはなりたくない」ことが多いです。教育面では、必要以上に甘やかしたり干渉したりがなかったため、感謝していません。

A ●私の母は専業主婦で、それはいいと思います。でも父の発言力が強いので、私は、もつと自分の意思で生きてい

うと思いました。

B ●僕の母は働いていて、むしろ母のほうに発言権があり、男女差別は感じませんでした。でも父は、妹には、女らしくするように言っています。

C ●子どもは、無意識に自分が育ってきた家庭と同じようなことをしますね。

D ●たとえば、殴られて育った母親は、悪いことだと知りながら、自分の子どもを殴っています。

F ●だからこそ特に、子育て中の母親にジェンダーを認識して欲しいですね。

### 男の受難の時代がやってくる?

D ●アンケートからは、女性は食事に幸せを感じたり、仕事より恋が重要だと読みとれます。

C ●それと、充実感を仕事に感じる人が多いのが、とても意外でした。

D ●特に女性に多いですね。

E ●充実感というより達成感ではないでしょうか?

F ●仕事を評価され、給与をもらうという満足を感しているのでは?

E ●選択肢に「ボランティア活動」があったら、会社以外で充実感を感じる人がいたかもしれません。

D ●「スポーツ」や「読書」でも男女で差が大きいです。

A ●インタビューでも、女性は恋を重要視しているようです。「添い遂げたい」というのは、相手の男性をよく吟味し

ていることですよ。

C ●労働力が不足してきたことから、これからは女性もつと働きやすくなる。そうなれば経済力を付けて自立する。そして、結婚はしなくていいから子どもは欲しいと思う女性が増えてくる。

男は、うかうかしてはいられませんね。

F ●だからこそ共同参画を進めて、「女性とともに生きたいと思う男」になってほしい。

D ●と同時に、シングルマザーや婚外子もハンディなしに生きられる社会にしていくべきでしょう。

F ●男はそうなるのが恐いので、させないように手立てをしてきたのでしよう。

C ●戦場で「お母さん」とは言っても「お父さん」と言う人は少ない。経済力を失ったら、男なんて無力な存在ではないですか。

### 原点にあるのは人権感覚

C ●ジェンダーを考える上で、現実社会の保守的な実態をしつかり認識することが大事です。男社会が作った常識をただ批判したり馬鹿にするだけでは、共同参画から遠のいていくのでは?

D ●同感です。問答無用の押し付けでは、何も改善されません。

C ●現存する社会常識が、両性の人権にとって、ほんとうにフェアなものかどうか。誰もが不安なく人間的に生きられる社会なのか。自分と違う価値観は認められないというのはおかしい。多

数決民主主義は少数者に不利になるということも考えたいものですね。

### 編集委員

小泉 孝之  
染谷 綱代  
永島 京子  
橋野 竜基  
村田美千子  
山口 晴子  
アドバイザー  
木村 幸男



静岡県男女共同参画センターからのお知らせです

誰もがいきいきと活躍できる**男女共同参画社会**に向けて  
**活動する団体・グループを応援します**



あざれあでは、地域における男女共同参画を進めるためにがんばっている民間団体が、自主的かつ主体的に企画し、運営する事業に対して助成をしています。今年度は下記の団体が助成を受けて、各地で事業を展開しています。

18年度助成事業一覧		
1	みしま女性史サークル	三島の地域女性史の発行
2	NPO法人世界女性会議ネットワーク静岡	女性のチャレンジを応援する「女性のチャレンジ支援マイタウンミーティング」を県下8市町で開催
3	NPO法人エンゼルサポートセンターゆりかご	家庭や地域における子育ての負担や不安を解消するためのセミナーや子育て相談等の開催
4	キッズドリーム研究会	父親が楽しみながら家事に参画する連続講座の開催
5	Safety First 静岡	自らの力を活かしたいと考えている女性を対象にした「女性のためのパワーアップ講座」の開催
6	SWOSの会	一般向けのわかりやすい男女共同参画ガイドブックの作成
7	静岡県SOHO振興協議会	女性のチャレンジを応援する「浜松発!女性ビジネスフォーラム」の開催
8	NPO法人人財フォーラム	男女共同参画関連労働法令の出前講座を学校等で開催

対象事業

奨励事業(事業費40万円以上)

- 就業や起業、地域活動などでチャレンジしようとする女性を支援する事業  
(たとえば・・・起業支援セミナーや再就職支援セミナーなど)
- 仕事と家庭・地域での生活の両立ができるような就業環境づくりを進める事業
- 政策・方針決定過程への女性の参画を進める事業
- 女性に対する暴力、セクシュアル・ハラスメント等の根絶に向けた事業  
(たとえば・・・被害者サポーター養成講座など)
- 子育てや介護を支援する環境づくりを進める事業  
(たとえば・・・託児サポーター養成講座、子育て・介護・家事への男性参画講座など)
- 男女共同参画を理解するための啓発教材(劇等の脚本、紙芝居、ビデオ、パネル、ホームページ、冊子など)を作成し、それを使って実施する事業

推進事業(事業費60万円以上)

- 上記以外で男女共同参画を進めるために実施する事業



7月のあざれあフェスティバルで  
 昨年度実施事業の展示を行いました。

助成金額

奨励事業・・・事業費の1/2以内(上限100万円)  
 推進事業・・・事業費の1/3以内( )

お問い合わせ

TEL 054-250-8107

(事業推進スタッフまで)

**男性のための相談**

**「あざれあ男性相談」が2年目を迎えました**

静岡県男女共同参画センターあざれあでは、平成17年度より「あざれあ男性相談」を開設しています。月1回第3土曜日の午後1時～5時に行っており、平成17年度は23件の相談がありました。また、平成18年度は7月までに7件の相談が寄せられています。相談の内容は、「夫婦関係」「暮らし」「労働」「生き方」「人間関係」など様々です。

「あざれあ男性相談」は、日々の生活の中で「生きにくさ」を抱え、「男らしさ」の縛りに悩んでいる男性に対し、「男の鎧よろい」を脱いで相談者自身がよりよい解決策を見出していけるように支援するものです。

また、男性相談員を養成するための講座『男性相談セミナー』も平成17年度より実施しています。

あざれあ男性相談

電話窓口 **開設中**



自分の生き方、家庭の問題、仕事や健康の悩みなど電話で相談してみませんか。自分自身で解決の糸口を見出せるよう、専門の相談員が電話相談を行います。お気軽に電話ください。

開設日時 毎月第3土曜日 13:00～17:00

専用の電話番号

**054-272-7880**

「あざれあ男性相談セミナー」を受講された方々が、肩の力を抜いて男同士の話し合いができる会を開こうと

**「静岡メンズクラブくるま座」**を立ち上げました。

気軽にあざれあに集まり、自分探し・生き方探しを一緒にやりましょう。

開催 毎月第2木曜日 19:00～20:50

場所 県男女共同参画センターあざれあ

問い合わせ TEL **054-250-8107**  
(あざれあ)

**相談員の育成**

あざれあでは、男性相談に併せて市町や民間の相談窓口で男性からの相談に対応している男性相談員や、これから相談員をめざす男性を対象に、セミナーを開催しています。

**平成18年度男性相談セミナー**

**基礎編**

- 1「男女共同参画と男性学」  
大東貢生さん(佛教大学)
- 2「男の悩み～男らしさの縛り～」  
長須正明さん(東京聖栄大学)
- 3「男性のための相談の意義と役割」  
中村 彰さん(メンズセンター)

**実践編**

- 4・5・6  
「事例研究:相談対応ロールプレイ」  
濱田智崇さん(甲南大学博士研究員・臨床心理士「男」悩みのホットライン代表)

**前年度の参加者の声**

- ・相談の受け手として「アドバイス」よりも「聞き上手」となることが大切だとよく分かった。
- ・実際の相談の受け答えがいかに難しいか体験できた。体験を重ねることが力となると思った。

# Voice 読者の声

## 48号「まさか?? ほんと!? なるほど!!」を読んで

★在住外国人の生の声を聞き、そのたくましさを見習わねばと思いました。大阪から移り住んだ私でも、気質や生活スタイル、そして結婚事情の違いを日々実感します。その違いを楽しむ余裕を持ちたいと思います。

(浜松市・かくやんさん・40代女性)

★前号とあわせて大変興味深く、また日本人として反省すべきところ、誇るべきところが、はっきり示されたように思います。県の男女共同参画も行政が一生懸命やったださっていますが、日本人一人ひとりに広めたり、今考えなければならないことのPRには、一層の努力が必要です。正しい小中学校教育により隔々までの意識改革を期待します。

(静岡市・A.K.M.さん・70代女性)

★男女の賃金差をあらわす世界地図は、日本の実態がよくわかり感心しました。また、静岡県在住外国人のインタビュー記事は、彼らの鋭い指摘に舌を巻きながら、興味深く読ませてもらいました。日本人として恥ずかしかったり、耳が痛かったり、うれしかったり…。紙面がうまく構成されていて、楽しく見ることができました。

(奈良県・上原夏子さん・50代)

★まさか、ほんと、やっぱり! 男女の賃金格差は、もっと小差が保たれていると考えていただけに、意外でした。女性の方がすぐれた才能を発揮して効率的な仕事をこなしている職種も随分あるのに…。評価されてない結果をまざまざと目の前にしたら、どうでしょうか。世の男性よ、油断することなかれ!! (徳島市・岩見美智子さん・60代)

★私は東京生まれで、結婚し神奈川県で暮らしています。静岡は夫の会社の本社があります。この広報誌を読ませていただくと、静岡の良い所とよく分からないところが少しずつ見えてくるような気がします。その立場、その年齢にならなければ分からないことが多いものですが、こうした広報誌を読むことによって相手の立場を理解し合えると思います。

(三浦市・50代・女性)

★48号の特集、それぞれみなさん、とても家庭を大切にしておられ、お国柄もよく出ていて、面白く読ませていただきました。じつは、私の夫はイギリス人で、日本に来て8年、ずっと「専業主夫」をしております。

(静岡県・M.Mさん・30代女性)

## 49号のご感想をお寄せください。

本号のハサミ込みハガキ、またはE-mail、FAXでも結構です。抽選で美術館招待券などを差し上げます。

**FAX 054-251-5085**

**E-mail:kouryuukaigi@ka.tnc.ne.jp**



post card



mail



fax

## 編集後記

・編集委員・  
小泉 孝之  
染谷 絹代  
永島 京子  
橋野 竜基  
村田 美千子  
山口 晴子  
・アドバイザー・  
木村 幸男

●みんな今を一所懸命生きていて、それは性別も世代も超えた共通点ではないでしょうか。そこから「自分らしさ」が生まれてくると、素敵ですね!  
(小泉孝之)

●若者たちの中にある「らしさ」へのこだわりが印象的でした。取材は期一会、唯一無二。私自身のコミュニケーション能力と人間味が問われる場でもありました。  
(染谷絹代)

●ジェンダーの刷り込みと言われてもピンとこなかった私ですが、インタビューを通して、おぼろげに分かってきました。まずは自分を見つめることから始めます。  
(永島京子)

●若者の仕事・恋愛・結婚・自分の人生などに対する考え方は千差万別であり、その点において今回の特集は、同世代の私自身にとっても大変興味深いものでした。  
(橋野竜基)

●人が古典作品に共感するのは、恋愛・結婚に関する理想が、昔からあまり変わっていないからかもしれない。そんなところにも生き方のヒントがありそうです。  
(村田美千子)

●自分以外の生き方・考え方をこういうかたちで知るのには新鮮でした。正解がないからこそ、生きるおもしろさや出会いのたのしさがあるのかなと感じました。  
(山口晴子)



ねっとわあく

Vol.49

監修・発行/静岡県男女共同参画センター

発行日/平成18年10月1日

住所/〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

T E L/054-250-8107 FAX/054-255-9266

編集/静岡県男女共同参画センター交流会議

編集協力/esplanet! すずきえいこ